

今後のまちづくりに対するアイディア・提案 (自由回答2)

～ 町制施行に関する住民意識調査結果 (その8) ～

公園・河川

【横越地区】

- ・大きな公園をつくるべきである。
- ・家族でのんびり一日をすごせるような公園・テーマパークを整備してほしい。
- ・阿賀野川の環境整備・活用をする。(遊歩道、魚釣場等)

【沢海地区】

- ・沢海に子供の公園をつくってほしい。
- ・阿賀野川の河原を整備する。

【木津地区】

- ・小阿賀野川の堤防を歩行者専用の散策路にしてほしい。

【二本木地区】

- ・設備の整った公園をつくってほしい。
- ・沢海の河川公園に続く堤防を整備してほしい。

【小杉地区】

- ・広場や公園を増やし、人が集まる場所をつくってほしい。
- ・10年、20年後を見通し、住民の心のやすらぐ公園等をつくってほしい。

【藤山地区】

- ・阿賀野川の河川敷を利用し、体育施設の充実をはかり人間を育成する。
- ・川の流れや噴水があり、1日を楽しくすごせるような公園がほしい。

教育・文化

【横越地区】

- ・図書館の充実と情報提供サービスを進めてほしい。
- ・新体育館に一般開放の室内プールをつけてほしい。
- ・学童保育を早急に実施してほしい。

【沢海地区】

- ・スポーツ施設(野球場、サッカー場等)をつくり、まちのシンボルとする。
- ・中学校の校舎を新しく建て替えてほしい。

【木津地区】

- ・新体育館に隣接したナイター設備のあるテニスコート、自然公園をつくってほしい。
- ・音楽ホールがほしい。

【二本木地区】

- ・木津、二本木地域に分校を設置してほしい。
- ・保母の資質向上など保育園の内容を充実させる。

【小杉地区】

- ・スポーツ施設(テニスコート、キャンプ場)の充実をはかってほしい。
- ・図書館をつくってほしい。

姉妹村 美浦村とのホット情報交換

競走馬のふるさとから

今回の姉妹村ホット情報交換コーナーは、全国的にも有名なJRA美浦トレーニングセンターについて紹介します。

このJRA美浦トレーニングセンターは、日本中央競馬会の関東を主戦場(東京・中山)とする競走馬トレーニングセンターとして、昭和五十三年に開設しました。それまで、人口八千人余りの純農村として素朴なたたずまいを見せていた当村も、こ

の開場に伴い関係者約五千人と馬二千頭が引越してきて村に活気があふれ、大きくその姿を変えました。

明日の栄光を夢見る 馬と人が集う「王国」

さて、このトレーニングセンターの総面積は、東京ドームの四十七倍の約六十五万坪で、その中には、南・北の調教場、坂路コース、スイミングプールをはじめとする近代的で多種多様

(その3)

な調教施設が整備されており、馬たちは、競馬場という晴れの舞台で最高のレースを見せるため、日々の厳しいトレーニングとコンディショニングの調整を行っています。また、調教師やきゅうむ員、騎手、関係職員、約一、五〇〇世帯(約五、〇〇〇人)の宿舎、そして、公園や様々な厚生施設が整っており、ここで働く関係者やその家族も快適に生活を送っており、まさに、明日の栄光を夢見る馬と人が集う「王国」といえます。

ふる里物語

村史編さんだより

民俗調査の お願い

ご存知のように、目下「横越村史」の編さん事業が進められています。通史編一巻・資料編一巻の計二巻で、平成十一年度に刊行の予定となっております。現在は史料の調査を行っています。ふるさとの自然から始まり、原始・古代・中世・近世を経て明治・大正・昭和の近現代に至る横越の長い歴史について正確に、そして分かりやすく親しみの持てる村史になるよう心掛けております。

ところで、みなさんは、『ダービー』や『有馬記念』をご存じですか? これら日本中央競馬会主催の大きなレースをG1(グレード1の略)といい、このところ、今までの各地の郷土史の中には、書き残されてきた史料(古文書・文献)を中心にまとめられているため、とかく特定の人物や出来事の記述に片寄り、堅くて難しい内容となっているものも少なくありません。それだけに横越村史では、昔からこの地に住んできた多くの人々が、どのように暮らしを営み、どのような生き方をしていたか、いかならば民俗を資料として反映した温か味のあるものを作りたいたいと考えています。

民俗調査に当たっては長い生活体験と知識を持つ高齢の方が好伝承者(話者)となります。そこでこれからもそうした方々をお訪ねし、昔の暮らしについて色々とお話をお聞かせ頂きたいと願っております。本欄では、これからも折々に横越村の興味深い民俗の話題について紹介して行こうと思っております。(駒形 彪)



木津での聞き取り調査 (H 7. 4. 8)

